

会 議 議 事 録 (抄)

会議名	専門学校東京テクニカルカレッジ 第2回 学校関係者評価委員会
開催日時	令和 6 年11月 29日(金) 18 時 00 分～20 時 00 分
会場	専門学校東京テクニカルカレッジ 地下 1 階 テラホール
参加者	外 部 委 員：12名(委員の氏名・所属等は別添資料参照) 学内関係者：4名
配布資料	① 会次第 ② 委員名簿 ③ 前回議事録 ④ 2024(令和6)年度 第2回学校関係者評価委員会 PP 資料 ⑤ 東京の産業教育 第 61 号 20・21 頁
会議録	1. 開会の辞・事務局紹介 開会宣言 【甲田副校長(専門学校東京テクニカルカレッジ)】 2. 学園側関係者挨拶 校長挨拶 【白井校長(専門学校東京テクニカルカレッジ)】 3. 委員紹介 各委員の紹介 【甲田副校長】 4. 議長の選出および議長挨拶 会則に則り、渡邊委員長(NXTech 株式会社)を議長に選出 【甲田副校長】 議長挨拶 【渡邊委員長】 5. 開催要件の確認 【甲田副校長】 開催要件の確認(総委員の過半数の出席(委員16名、出席12 名)) 6. 議事 (1)第一号議案:2024(令和 6)年度 第 1 回会議議事録の確認 【渡邊委員長】 事務局へ前回議事録の確認指示 【甲田副校長】 前回議事録説明 【渡邊委員長】 前回議事録内容の齟齬等を確認 【全委員】 全員一致で承認 (2)第二号議案:2024(令和 6)年度事業報告 【渡邊委員長】 事務局へ 2024 年度の事業報告を指示 【甲田副校長】 報告者白井校長を指名 【白井校長】 2024(令和 6)年度事業報告 ≪はじめに～専門学校を取り巻く状況・2020年の教育改革とその影響～≫ 高校教育の改革 大学入学者選抜の改革 大学教育の改革 専門職大学制度 高等教育の無償化 リカレント教育の充実

基本方針.1／共感される学校づくり

1-1 学生募集に関する報告

「ポートフォリオの多様化を推進し、各科ごとに定員を充足させる」

- ・募集施策の改善
- ・留学生募集施策の推進
- ・高専連携事業の推進
- ・企業連携事業の推進によるリカレント層の取り組み
- ・入学者数 383 名・在籍者 605 名の実現

1-2 高専産連携に関する報告

高専連携(教育連携)の強化

- ・都立練馬工科高校 ⇒ 体験 I 授業・インターンシップ(3日間)・文科事業
- ・都立蔵前工科高校 ⇒ 情報授業(1 年生全クラス)・文科事業
- ・私立堀越高等学校 ⇒ 探求授業・文科事業
- ・私立秀英高等学校 ⇒ 探求授業
- ・都立六郷工科高校 ⇒ 文科事業
- ・都立多摩工業高校 ⇒ 文科事業
- ・埼玉県立新座総合科学高校 ⇒ 情報授業・インターンシップ(6日間)
- ・理科担当教員向けセミナーの実施 ⇒ 都立農芸高校等の生物授業へ
- ・県立神奈川工業高等学校 ⇒ 日本初、『次世代建築リーダー育成コンソーシアム』を設立
7/16、11/11、19、12/20 連携授業実施(予定)

高専産連携(教育連携)の強化

『次世代建築リーダー育成コンソーシアム』

神奈川工業高等学校、東京テクニカルカレッジ建築監督科、清水建設(株)

産学連携による7年間(高校3年・専門4年)の人材育成プログラムを提供

- ・第1回連携授業 清水建設(株)本社にて神奈川工業高校建設科1年80名を対象(7/13)
- ・第2回連携授業 神奈川工業高校(10/31)
- ・第3回連携授業 銀座エリア・豊洲エリアの建築見学 清水建設(株)案内(12/13)
- ・第4回連携授業 トークショー「施工管理者の先輩の経験を聞き出そう」 TTC(3/14)

『大和ハウス工業株式会社×専門学校東京テクニカルカレッジ』

高卒新入社員教育を2年間 TTC が担当

1-3 留学生支援に関する報告

小山学園後援会『留学生サポーターズクラブ』

採用内定とセットで学費減免の発生

基本方針.2／自己改善できる学校づくり

2-1 教務指標に関する報告

退学率5%以内の抑制

- ・退学者数 :2.2%(5/1 在籍 529 名に対し 12 名)
- ・年間出席率:95.6%
- ・課題発生率:2.8%
- ・課題残率 :7.9%

2-2 学修成果に関する報告 2023

①IoT+AI 科

ヒーローズリーグ 2023 において2作品が「優秀賞」を受賞

②情報処理科

キャリアマップ e ポートフォリオコンテスト情報部門「最優秀賞」受賞

③Web 動画クリエイター科

Web デザイナー検定において、首席合格「文部科学大臣賞」受賞

④データサイエンス+AI 科

生成 AI による持続可能な社会に貢献するアプリ開発国際コンペで、世界 150 チーム中ファイナリスト9チームに選出

⑤建築科夜間

インテリア産業協会主催コンペにて「インテリア産業協会長賞」受賞

⑥バイオテクノロジー科

「中級バイオ技術者試験」全員合格

⑦建築監督科

ビジネス能力検定2級首席合格にて「優秀賞」受賞

2-2 学修成果に関する報告 2024

①データサイエンス+AI 科

Terakoya.AI 主催ビジネスアイデアコンテストにて、「総合優勝」

②IoT+AI 科

ヒーローズリーグ 2024、18 作品を出品

③建築監督科

1級施工管理技術者試験 9 名合格

④インテリア科

インテリアコーディネーター試験6名合格

2-2 学修成果発表に関する報告

秋季建築系学科展示(10/25・26)

⇒ 企業・保護者等外部来場者数 62 名

秋季ゲームプログラミング科ゲーム大会(10/26)

⇒ 卒業生 194 名来校

2-3 リアルジョブプロジェクトに関する報告

各科の取り組み(継続課題とともに、新規課題に取り組む)

・建築監督科

⇒OC メニュー開発、校舎の修繕提案、業界研究

・建築家

⇒校内共用部への提案、知識・技術の研究、調査と提案

・インテリア科

⇒男子学生寮の1室(モデルルーム)をリノベーション

・情報処理科

⇒ラズベリーパイによりIoTコンテンツの開発

・IoT+AI科

⇒1 年生:ヒーローズリーグコンテンツの応募、2 年生:ハッカソンに参加

・DS+AI科

⇒学習者のためのクイズアプリ開発、高校テニス部用画像分析アプリ開発等

・ゲームPG科

⇒Windows ゲーム作成、スマートフォンゲーム開発、ネットワークゲーム開発

・Web 動画クリエイター科

⇒中野うさぎ飯カレンダー壁紙作成、吉祥寺ハロウィンポスター柵瀬等

・バイオテクノロジー科

⇒食品開発、理科実験、環境美化等

・環境テクノロジー科

⇒マイクロプラスチック問題、希少生物の保護等

2-4 海外研修に関する報告

建築インテリア海外研修

⇒バルセロナ4泊7日

SISP(アメリカ短期留学)

⇒ピッツバーグ州立大学

2-5 就職活動に関する報告

早期内定(校目標8月末内定80%)現実するとともに 優良企業へ内定を確保

⇒8 月末84%

ディプロマポリシー達成のエビデンスとしての内定を獲得

2-6 学生支援等に関する報告

高等教育の無償化

・2023年度:37名(7.7%)受給 2024年度:40 名(7.6%)

リカレント教育の充実

・教育訓練給付金(専門実践訓練)の継続

・専門人材育成訓練制度の受け入れ継続

⇒新規で情報処理科とゲームプログラミング科で採用

職業実践専門課程申請

・データサイエンス+AI 科

・IoT+AI 科

基本方針.3/DX をワクワクさせる学校づくり

3 DX をワクワクさせる学校づくりに関する報告

「新しい技術の時代を楽しむ、ワクワクする学びを提供する」

- 1) 新たな学びを、学校の特徴として「将来構想」に盛り込む
- 2) 中期計画テーマ2の新しい学びの提案を具現化する
 - ⇒分野横断人材の育成、TTC の「ダブルメジャー」はじまる
 - ⇒区分制(専攻科設立→高度専門士付与)の導入検討
 - ⇒分野深堀人材の育成、TTC の「スタートアップ」はじまる
 - ⇒インキュベーションセンター設立の検討
- 3) 「DX」を共通テーマに、学科連携を強化する
 - ⇒それぞれの専門分野の発展の方向性を探り、共有する
 - ⇒関心が高いテーマに関し、専門人材未来会議を開催(学生も参加可)
 - ⇒AI の活用等をととして学科間の連携をはかる

「中長期の視点から、校の経営機能の最適化に向けた施策を立案する」

少子化及び大学全入を背景に定員充足率が50%に満たない学科が増加する等、経営状況が悪化している。そうした状況を改善するため、中長期的な視点から、下記ポイントを中心にゼロベースで校の経営機能の最適化に向けた施策を立案する。

「新しい技術の時代を楽しむ、ワクワクする学びを提供する」

- 1) 収支状況の再確認と採算性に向けた改善策の洗い出し
- 2) 定員充足率50%以下の学科における存廃およびに改善策に関する検討
- 3) 採算性向上に向けた「学科構成」に関する検討
- 4) 専修学校に関する法改正への対応(法改正を学内改善の好機とする)
 - ・単位制の導入の検討(必要性和負担の両面から検討を行う)
 - ・区分制導入の検討
 - ・補助金・助成金等の再検討
- 5) DX 社会をワクワクさせる学校づくりにおける、新しい学びに関する検討(前項4・区分制導入の検討とも連動)

「学教育法の一部を改正する法律案」

専修学校専門課程の入学資格を大学と同様の規定とする。

在籍者の呼称を「生徒」から「学生」とする

大学と同様に学習時間に関する基準を「単位数」により定めることができるようにする

自己点検評価を義務付け、外部の識見を有するものによる評価を受ける努力義務を定める。

(3)第三号議案:審議(取り組みに関する評価および意見交換)

【渡邊委員長】

事務局へ審議の趣旨説明の指示

【甲田副校長】

概要を説明

以下、各委員の意見及び学校側の答弁の概要

【岸委員(東中野五丁目小滝町会)】

「今年度はバイオテクノロジー科の学生に町会の事業でトマトの栽培や球根植え等にも協力いただいた。学生と関わる中で感じたのは高卒生と、社会人経験者のリカレント層の学生が入り混じっており非常によい刺激となっている。」

【白井校長】

「多様性は非常に大事になってきており、今後も留学生募集はじめ企業連携なども積極的に進めていきたい。多様性のある学びの中でしかできないことある。」

【吉田委員(株式会社ビーアライブ)】

「大学との比較というところで、大学全入時代である今、専門学校がどう教育していくか。既に様々なチャレンジをしていると思うが、誰もが大学に入学できるようになった際に、専門学校をどう選択してもらおうか。大学には出せない味を出していただきたい。」

【三浦委員(株式会社リクルート)】

「リカレント教育のところで、単位制に移行するにあたり、リカレントのあり方や、教育の方針について現段階であれば教えていただきたい。また、第三者評価が義務付けられるため、準備は必須である。」

【白井校長】

「第三者評価の準備はしていきたい。単位制の移行については、専門学校において移行は容易ではない。専門学校は、全て必修科目で校舎のキャパシティもなく教室も多くはないため、学内規定等で詳細を定めなければならない。」

【松本委員(株式会社進研アド)】

「募集が好調な専門学校の共通点。北海道の学校では、通学を週5か4で選択できる。神戸の保育の学校は、2年間で学ぶ内容を3年間でじっくり学ぶことができる。といった自由度の高い個別最適なカリキュラムに落とし込めている専門学校が好調である。」

【白井校長】

「そのあたりが単位制のメリットかもしれない。」

【杉岡委員(株式会社グッドニュース)】

「留学生の出口の部分、学科別の留学生の比率、就職希望者数、就職難易度を伺いたい。」

【白井校長】

「学内では、対象者をリスト化し数値化している。また、就職については企業に出向いてサポーターズクラブを中心に準備をしている。」

【杉岡委員】

「企業連携の部分で、対象を文系の大卒者に広げられないか。IT分野の企業から、技術の進歩に文系大卒の成長スピードがついていけない。会社のカルチャーと合わないから専門卒を採用したいという声も多い。」

【白井校長】

「企業連携は、現段階でも様々な企業からオファーが来ており、今後も進めていきたい。」

【島田委員(エーピージーエムデザインアトリエ／法政大学大学院デザイン工学研究科)】

「高校・企業との連携やリカレントなど幅広く取り入れている。私自身、学生に対して意欲のある授業をしなければならない。学校教育法改正にあたって選択授業ができるようになれば刺激になるのでは。他の学科の授業が取れるようになれば、新しい発想が生まれて面白いのではないかな。最終的には、ダブルメジャーにつづくのではないかな。成果展示は、もう少し遅くまで開催するか、ネット公開してほしい。」

【佐々委員(特定非営利活動法人くらしとバイオプラザ21)】

(芸術系の学校を参考に)外国籍の増加に伴い、現地の言語を話せる人材を置くのがよいのではないかな。また、アシロマ AI などでは、日本からの参加は少ないため、共に促進してほしい。他にも、内部だけでなく外部でも互換のある科目履修ができるであるとか、授業互換ができる専門学校があるとよい。仕事感を持って人材を育てるというのは非常に強みであるが、対大学としたときにどう売り込むか。文科省の協力も必要である。」

【中山委員(有限会社イプシロン／東京商工会議所 中野支部)】

「入学者数・出席率・就職率など安定しているように見える一方で、見えない部分で苦勞しているように感じる。気になるのが、SNS 上でのレスポンスの低さ。いいね！はくるが、コメントがないなど。実際は活気があるのにもかわらず、SNS から活気があるところが見えないのが不思議である。より良い形で伝わってほしい。」

【白井校長】

「SNS は非常に難しい。苦戦しているところである。」

【楡井委員(建築監督科保護者)】

「保護者の視点から、学習成果展示で息子の作品を見て意外な一面が垣間見えた。得意分野に加え、不得意分野がある方が、成長につながると考えている。」

【藤沼委員(NEC ソリューションイノベータ株式会社)】

「RJP・地域連携も含めて、プロジェクトの枠も広げていてよい。」

4期制への変更は、教員への負担が大きいのでは。それによって影響する学生も懸念される。5期生と4期生の混在する期間は、休みも別々となり、教員はさらに負担がかかるのでは。他にも、留学生の言葉の壁があると思うので、自動翻訳ツールの活用もよいのでは。」

【白井校長】

「RJP に関しては、少しずつ広げている状況ではあるが、なかなか大きなプロジェクトができていない。」

言葉の壁に関しては、事前に資料を配布するなどして対策している。教育の場でどれくらいツールを使用してもよいか悩ましいところである。」

	【安藤委員(株式会社 miwa)】 「設計事務所にいるが、近年は新卒も少ない。建築科も設計事務所にあまり就職しないということで、花形商売が変わってきた印象。中途採用もしているが、「2年間」ある分野に従事してきたという方が多い。可能であれば、就職後2年目の卒業生を追いかけていただきたい。」 【渡邊委員長(NEXT株式会社)】 「RJP が停滞気味だと感じている。学生生活を通して、自分の学びが社会にどう貢献できているのかを感じることが大事なのではないか。そんな中で、データサイエンスのコンペティションの総合優勝というのは非常に興味深いところである。」 【白井校長】 「RJP は小さいながら、地域連携等はできてきているところである。少しずつ広げていきたい。RJP ではないが、IoT と自動車のコボレーションなどもできてきている。データサイエンス+AI 科のコンペは、様々な学科の学生が参加しており、これも学科横断の一つである。」 7. 閉会の辞 【渡邊委員長】 「ありがとうございました。現在までの説明をもって評価をしたいと思います。教育的視点からの改善アプローチでありますし、これまでの取り組みを拝見し、テクニカルカレッジらしい改善への取り組みだと思いますが、委員の皆さんはいかがでしょう。」 【全委員】 全員一致で賛同 【渡邊委員長】 閉式挨拶 【甲田副校長】 2025年3月8日(土)卒業研究・卒業制作および RJP 学習成果展示と発表、夕刻より小山区園同窓会主催の同窓会「よるテラ」を実施予定。 以上
--	---

議事録署名人

_____ 印

_____ 印